

○ 中学校社会 第3学年 ①

「二つの世界大戦と日本」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点		
			関 意 態	思 判 表	知 技 理
(1)	第一次世界大戦に日本が参加した理由について理解しているかをみる問題である。	<p>歴史的分野－内容(5)「近代の日本と世界」のうち、主として第一次世界大戦から第二次世界大戦までの期間における歴史的事象や諸データを手がかりとした活用問題である。</p> <p>また、問題の設定を「近代後期のまとめ」として取り扱うことにより、内容(1)ウの「その時代を大観し、特色をとらえさせる」力についても評価できるよう配慮している。</p>			○
(2)	<p>第一次世界大戦が日本に大戦景気をもたらした要因について、十分に理解しているかをみる問題である。</p> <p>資料1から主戦場であったヨーロッパ諸国の被害が大きかったことを読み取るとともに、資料2から世界的な船舶や鉄製品の需要の高まりによって日本の工業が発展したことを読み取り、それらを関連付けながら、この時期の日本は輸出が輸入を上回っていたことを説明できる力が必要である。</p>			◎	○
(3)	千島樺太交換条約、ポーツマス条約、日韓併合及び現在の日本の国土についての知識と資料4のデータを関連付けながら、領土面積が変化している理由を判断していく能力が必要である。		○	◎	○
(4)	資料5～資料7までを関連付けながら、戦時中においては国民の生活よりも戦争に勝つことが重要視され、国民の生活を圧迫していたことについて考察する能力が必要である。			◎	○
(5)	資料5～8を通して、戦争が国民の生活を圧迫したことを読み取るとともに、戦争の惨禍を繰り返すことなく平和を希求していこうとする意欲や態度をみる問題である。		◎		○